



持続可能な未来へ

人や地域の環境を大切にしながら、テクノロジーを活かすことをみんなで考える
環境や資源を次代へつなぎ、未来にわたって豊かな生活が続くまちへ

KEIHANNA SCIENCE CITY
けいはんな学術研究都市

TECHNOLOGY
AI
LABORATORY
INNOVATION
技術革新
新たなものを創造し、変革を起こすことで
経済や社会に価値を生み出す

BUY LOCAL
地元で買う・食べる
地元の食材や商店を継続的に利用する
ことで、良質な商品やサービスが生まれ、
地域の経済が活性化される

FARM
MADE IN LOCAL

EVERYDAY LIFE
毎日の暮らしの中で
地域の魅力が増すことで生活の質が
上がり、多くの人が住みたいと思つ
まちになる。それがまた、地域の魅力
を増やすことにつながる

WORK
CONVENIENCE
RESTAURANT

KIZUGAWA City



LOCAL MEDIA
Ex. jiwajiwa
「まちを動かすのは人」
土地ならではの特徴やそこに
住む人々に注目し、地域の魅
力を内外に発信していく

未来がある、土がある、暮らしがある

特集

「けいはんな学術都市」って、
一体なんだ？

木津川市の人口は、現在約7万8300人（2020年2月末）。2007年の木津川市発足から1万人以上も増加しました。このエリアが好きだから。自然が多いから。子育てしやすいから。奈良・京都・大阪へのアクセスがいいから。いろんな人が、いろんな理由で、この町で暮らしています。いろんな暮らしがあるからこそ、近くにあるのに、実はよく知らないことがあるのでは？ 今回は、木津川市の魅力のひとつ、創造のエリアである「けいはんな学術都市」を紹介いたします。

未来へ続く暮らしを創る

「けいはんな学術都市」は、1978年に始まった国のプロジェクトに源を発します。木津川市だけでなく、京田辺市や精華町、奈良市や枚方市なども含む広大な地域に、12の学術研究地区が分散されています。指定地区である梅美台や木津川台周辺を車で走ってみましょう。関西光科学研究所、けいはんなオーブンイノベーションセンター、国際高等研究所：現代的で立派な施設と、難しそうな名称がずらり。どこか縁遠く感じる人が多いかもしれませんが。あの大きな建物の中では、何が行われているのでしょうか？

現在、「けいはんな学術都市」エリアに立地している研究所や企業は140以上。それぞれが専門分野に特化しているので、その内容は多種多彩です。

例えば、赤ちゃんの動きの研究をして、乳幼児の事故防止につなげる。レーザーの技術を開発して、がん治療に役立てる。耐震技術や、快適な照明の使い方を紹介し、家を建てる際の参考にしてもらう。2018年には、車の自動運転の実験が、木津川台地区の公道ではじまりました。「研究」というと難しく聞こえますが、私たちの「暮らし」が創造されています。

※ジワジワ第2号「農」ページに掲載を予定していましたが、4月開催の「うまいもんフェア」(場所:イオン高の原店)情報は、制作時点での市による新型コロナウイルス感染症予防を受けて割愛し、「創」ページ面のみで発行しています。